

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 湯川 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

#### 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

#### 生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

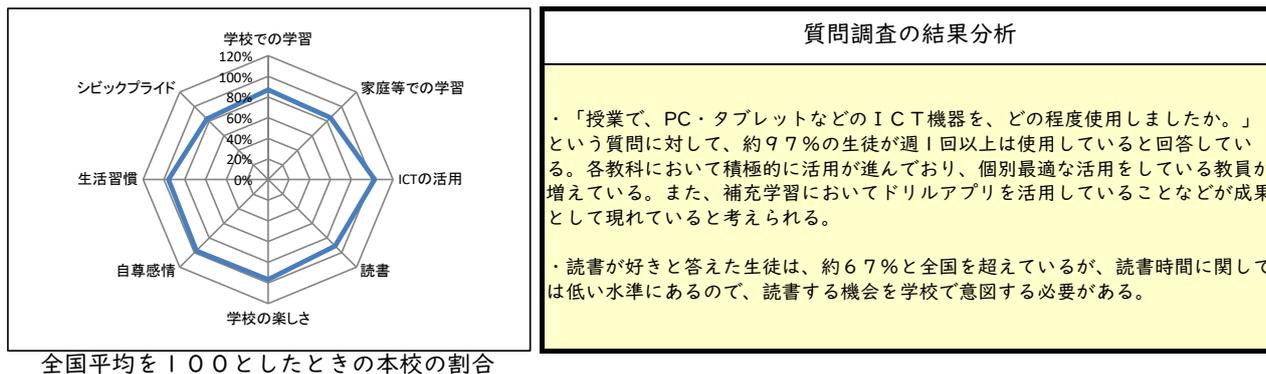
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	必要に応じて文章を整える力と自分の考えが分かりやすく伝わるように表現する力が低い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	ちなみに「会場図」を加えた目的を説明したものととして適切なものを選択する問題	
	努力が必要な問題	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	データの活用の領域において高い力をもっている一方で、図形の領域では低い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ問題	
	努力が必要な問題	四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	様々なことを分析して解釈するちからが低い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する問題	
	努力が必要な問題	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

生徒同士の教え合いや補充学習で基礎を定着させ、自主学習ノート（湯川ノート）や質問教室を通じて自発的な学習習慣を養う。さらに、学習スタイルである「共に高める三カ条」を生徒が中心となり定め意識して取り組むことで、自らの課題に主体的にチャレンジする姿勢を確立する。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

湯川ノートの質的向上に向け、相互評価や優れたノートの掲示を行い、他者の良い取組を学ぶ機会を増やす。また、放課後の学習スペースや質問教室への参加を促し、他者の手法を参考にさせることで、自らの課題認識と家庭学習への動機付けを図る。